

氏 名	岩 本 十 九 二 いわもと と く じ
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	医 博 第 210 号
学位授与の日付	昭 和 40 年 6 月 22 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	医 学 研 究 科 生 理 系 専 攻
学 位 論 文 題 目	正常並びに下垂体剔出ラットの頸動脈及び頸静脈に注射した溶液の胸管リンパに及ぼす影響について

論文調査委員 (主 査) 教 授 堀井五十雄 教 授 西村秀雄 教 授 岡本道雄

論 文 内 容 の 要 旨

1) 0.9%生理的食塩水をラット体重 300gr あたり 2ml のわりに頸動脈に注射, 2) 蒸溜水 1ml に KCL 23.1mg のわりにとかした液を等量頸動脈に注射, 3) 同 KCL 溶液を等量頸静脈に注射, 4) 同 KCL 溶液を等量, 下垂体剔出ラットの頸動脈に注射, 5) $\frac{1}{2}$ 濃度の KCL 溶液を等量頸動脈に注射したもののについて, 胸管リンパ内細胞数, 色調, 蛋白含有量の変化を比較検討した結果, つぎに述べるような結論を得た。

- 1) 生理的食塩水は lymphagogue として働き, KCL 溶液は lymphopenie をおこす。その効果は注射後 20~40 分, 或いは 40~60 分に最も強く現われる。半量の KCL 溶液にはほとんどその効果がない。
- 2) KCL 溶液による lymphopenie の効果は頸静脈に注射したときより, 頸動脈に注射した時の方がはかに強い。
- 3) KCL 溶液による lymphopenie の効果は下垂体剔出によってとり除かれたかにみえる。
- 4) 正常ラットのリンパは KCL 溶液注射後急速に乳糜色を失ない透明に近くなるが下垂体剔出ラットでは乳糜色を失なわない。
- 5) 蛋白質含有量は注射の影響をうけない。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は KCL の胸管リンパにおよぼす影響と, 下垂体, 副腎との関係を研究したものであるが, 雄性ラットに対する KCL 溶液の注射は胸管リンパの一過性の強い lymphopenie をきたすが, この効果は下垂体剔出や副腎摘出で除去される。また KCL 注射の胸管リンパに対する lymphopenie の影響は頸動脈注射の方が頸静脈注射のばあいよりも, はるかにつよい。

胸管リンパの乳糜色の変化は腸管からの脂肪吸収の程度を示す指標であるが, KCL 注射によって胸管

リンパの乳糜色は急速にその色調をうしなうが、下垂体剔除ラットではその影響は現われない。

胸管リンパの蛋白含有量は注射の影響を受けない。

以上によって胸管リンパのリンパ球数や腸管から胸管への脂肪の吸収は KCL の影響を強くうけるが、これは下垂体を刺激し副腎を介して作用することがわかる。

本論文は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。